



彩の国
埼玉県

大里農林振興 センターだより

発行 埼玉県大里農林振興センター
熊谷市久保島 1373-1
TEL:048-523-2812 FAX:048-526-2494
E-mail k232812@pref.saitama.lg.jp

創刊号



創刊のごあいさつ

大里農林振興センター所長 高橋 利雄

大里地域は都心から70km程と、首都圏の大消費地を抱える良好な立地条件のもと、温暖な気候など恵まれた自然条件の中で、豊かな農業を育んでまいりました。米麦・野菜・花植木・畜産など、それぞれの農業部門で先進的な取組が行われ、多彩な農業が展開されています。

こうした中、平成26年2月の未曾有の大雪では、農作物と共に多くの施設（ハウス等）が被害を受けました。

復興のための手厚い補助制度が創設されましたが、資材や職人の不足など厳しい状況により、長い道のりを経て、被災農家をはじめ関係者の御尽力により、この2月15日をもって全ての施設が再建されました。

天災については常に油断できない状況にあり、農業者の生活を守るためには、農業共済などのしっかりとした備えが必要です。

一方、先般のTPP協定の大筋合意を受け、農林水産分野においては大きな影響が懸念されているところですが、国の関連予算において様々な施策が講じられる予定です。

県では、これらの施策を積極的に活用し、効率的で高収益な生産出荷体制を実現するよう、多くの農業関係者と一丸となって取り組む準備を進めており、当センターとしても、各種事業の展開や技術支援等により、大里農業をさらに盛り上げてまいります。

この「大里農林振興センターだより」は、今まで認定農業者向けに年3回発行していた「大里普及だより」の内容をさらに充実し、多様な農業関連情報を、幅広い農業関係者に伝えることを目的に新たに発行するものです。

この冊子では、農政情報や技術情報、当センターの地域での取り組みなど、大里地域の農業関係者に、本当に活用できる情報を幅広くお届けしてまいりますので、大里農業について御理解を深めていただきますとともに、今後の営農に御活用いただければ幸いです。



再建されたハウス群（深谷市新戒地域 平成27年12月22日撮影）

大里農林振興センターのホームページにも同じ内容で掲載しております

ホームページ <http://www.pref.saitma.lg.jp/soshiki/b0906> 年2回発行（3、9月）

野菜の生産拡大に向けて

大里地域は、深谷市のねぎをはじめ、野菜の生産の盛んな地域であり、野菜の作付延べ面積は県全体の約31%を占めるなど、埼玉農業の中心を担っています。

当センターでは、さらなる産地強化に向け、事業の推進や技術支援を通して、野菜の生産拡大に向けた取組を行っています。

県事業の野菜もりもり大作戦事業では、農業法人や3戸以上の農業者が組織する団体等を対象に、より効率的な生産を行うことを目的とした生産施設や機械の導入等に対する補助を行っています。今年度はねぎの収穫機や予冷库等が整備されました。国の事業としては、来年度から、強い農業づくり交付金及び融資主体型経営体育成支援事業に加え、TPP対策として産地パワーアップ事業の実施も予定され、野菜の生産施設の整備や機械の導入等に対する補助が広がります。



また、病害虫対策や新たな技術の導入などの技術的支援によって、野菜産地の維持と強化育成を目指すとともに、市町や農業協同組合等の関係機関と連携し、野菜の生産拡大を推進していきます。

事業の導入に興味のある方、あるいは、野菜の栽培等にお困りの方は、当センターまでお問合せください。

平成26年2月の大雪被害からの復興について

1 平成26年2月の大雪被害

平成26年2月14日の積雪量は、熊谷で62cmという記録的な積雪量となり、管内全域でハウス倒壊等の甚大な被害を受けました。

県はこの大雪被害を2月27日に県農業災害特別措置条例に基づく特別災害として指定しました。

2 被害状況の把握

当センターは、2月15日から、市町、農協等と連携して被害状況の把握に努め、被害状況は、

3市町で被災販売農家数4,792戸、被害額96.5億円でした。

3 被害対策の実施

ハウス等被災施設の撤去、再建については、経営体育成支援事業を活用することとし、各地区で事業説明会を開催しました。

一度に大量のハウス再建を進める中で、職人不足、資材不足等により撤去工事は進んだものの再建工事が遅延し、約半分の事業費を、平成27年度に繰り越すこととなりました。

なお、県条例に基づく農作物の被害に対する次期作用種子購入費等の補助は、農業災害対策特別措置事業により、389戸に対し、5,437万円の補助金（県費）を交付しました。

一方、経営体育成条件整備事業は、平成28年2月中旬には、すべての工事が竣工し、事業の対象農家は1,370戸、再建施設棟数は、3,187棟、補助金額（国+県+市町）は、96億1千万円になりました。

4 被災施設再建後の産地復興について

本当の産地復興は、再建されたハウスに作物が定植され、収穫、出荷が軌道に乗ることです。今回の教訓を生かして、再度雪害等の気象災害を受けないような対応を意識することが大切です。当センターとしても市町、農協等関係機関と連携し、生産者の方々が再建施設を十分に活用し、大里農業が復興、発展するよう引き続き営農支援を行っています。

農地中間管理事業を活用しましょう！

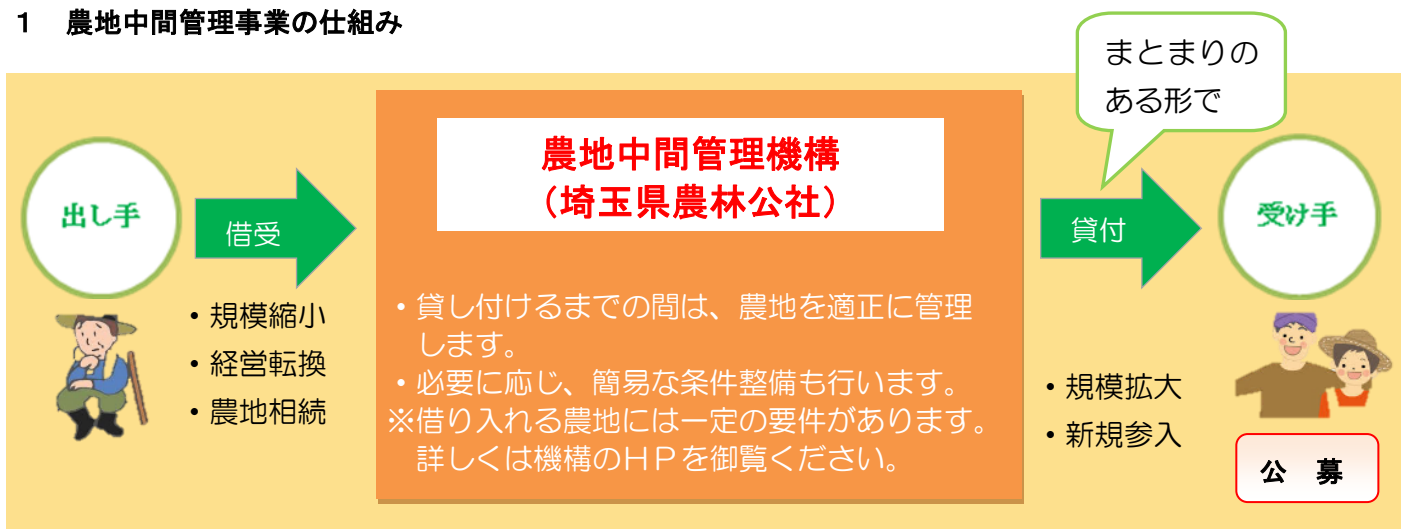
県では、意欲ある担い手に農地を集積・集約し、生産性の向上と農地の活用を図る「農地中間管理事業」を推進しています。

- ・ 作付している農地が分散しているが、集約することで更なる規模拡大ができると考えている方
- ・ 地域農業の発展に向けて、担い手による話し合いが必要と考える方
- ・ 所有されている農地を貸してもよいと考えている方



該当する方は、市町農政担当課や農業委員会、大里農林振興センター【☎048-523-2814】、または農地中間管理機構（埼玉県農林公社）【☎048-558-3555】へ御相談ください。

1 農地中間管理事業の仕組み



2 農地中間管理事業のメリット

○出し手（農地を貸したい方）

- ・ 機構が貸付先を選定するため、農地を安定して貸し付けできます。
- ・ 貸付期間満了後、貸付をやめたい場合は、土地が確実に戻ります。
- ・ 機構集積協力が交付される可能性があります。

○受け手（農地を借りたい方）

- ・ 作付する農地の集約（団地化）により農作業の効率化が図れます。
- ・ 農地の借り受けに係る手続きが簡素化されます。

3 大里農林振興センター管内の取組状況

(1) 熊谷市小原地区

平成27年6月19日に、1法人に対して、44.5haの農地が貸付され、平成28年3月末に4.3haが追加で貸付される予定です。

(2) 熊谷市奈良地区

平成28年3月末に、1法人と4農家に対して、5.9haの農地が貸付される予定です。

(3) 寄居町男衾地区

平成28年3月末に、1法人と6農家に対して、3.4haの農地が貸付される予定です。

エラー! 埋め込みオブジェクトが正しくありません。

受賞おめでとうございます！

① 平成27年度農山漁村女性・シニア活動表彰 「農林水産大臣賞」受賞 塚田とよ子さん（熊谷市）

農山漁村男女共同参画推進協議会が主催、農林水産省他が後援する同表彰「女性地域社会参画部門」の農林水産大臣賞に、塚田とよ子さん（熊谷市西野）が選ばれました。



塚田とよ子さん

塚田さんは、平成10年に安全・安心な野菜生産として減農薬減化学肥料栽培認証取得に取り組みました。平成13年には、女性による道の駅運営組織の立ち上げや看板商品開発の支援に尽力されました。平成14年には農業委員に就任し、以降、女性の視点で家族経営協定締結・食育活動に精力的に取り組み、地元営農組合の設立にも深く関わる等、地域農業の発展に寄与されたことが評価されました。今後も地域農業のリーダーとして活躍が期待されます。

② 第43回毎日農業記録賞「最優秀賞」受賞 篠崎 祭さん（深谷市）

毎日新聞社が主催する毎日農業記録賞において、全国から寄せられた1139編の中から、最優秀賞・新規就農大賞に、篠崎祭さん（深谷市榛沢）の「シングルマザーの新規就農奮闘記」が選ばれました。



篠崎 祭さん

農業を新たに始める決意をして、埼玉県農業大学校に入学、卒業後に実家のある深谷市で就農しました。30年間放置されていた農地を使い、単身で野菜作りを始め、2ha規模の農家になるまでの努力が評価されての受賞となりました。今後も女性農業者のリーダーとして活躍が期待されます。

③ 第6回埼玉農業大賞 地域貢献部門 「優秀賞」受賞 花のプリンス倶楽部（深谷市）

花のプリンス倶楽部（会長 横川琢也氏、会員数9人、以下「花プリ」）が、埼玉農業大賞地域貢献部門の優秀賞を受賞しました。

花プリは、JAふかや鉢物研究会青年部に所属する青年農業者で構成される組織です。平成20年から地域の子どもたちを対象とした花育活動に取り組んでおり、昨年度は、幼稚園、小中学校で719人に体験教室を開催し、花の美しさと自然を慈しむ心を伝えました

この活動により、「花のまち深谷」がPRされたことや地域農業振興に大きく貢献したことが評価されての受賞となりました。今後も、地域農業をリードする組織として活躍が期待されます。



花のプリンス倶楽部の代表者の皆さん

地域指導農家、青年農業経営士に認定されました

平成27年10月28日、大宮ソニックシティで平成27年度埼玉県農業・農村リーダー認定証交付式が開催され、熊谷市永井太田の荻原正裕氏（施設野菜複合）が地域指導農家に認定されました。

また、深谷市東方の中村肇氏（酪農）、深谷市大谷の島田勇樹氏（花き）、深谷市榛沢新田の鈴木和幸氏（露地野菜）、深谷市人見の柴崎直樹氏（露地野菜複合）の4人が青年農業経営士に認定されました。

地域指導農家の荻原氏には、地域農業の指導的役割が、青年農業経営士の4人には、地域の青年農業者のリーダーとしての活躍が期待されます。



荻原正裕氏



中村 肇氏



島田勇樹氏



鈴木和幸氏



柴崎直樹氏

大豆の新品種「里のほほえみ」を栽培しましょう

1 大豆栽培の状況について

大里地域は県内でも大豆の有数の産地であり、熊谷市は県内一の生産地です。しかし、栽培面積は年々減少しています。現在の主要品種は「タチナガハ」ですが、①青立ちしやすい、②裂莢しやすい、③蛋白質含有量が低いなど、栽培・品質面に問題があることも面積減少の一つの要因でした。

そこで、上記の欠点を解消するために、埼玉県では平成28年から奨励品種が「タチナガハ」から新品種「里のほほえみ」に変わる見込みです。「里のほほえみ」を栽培することで、収量、品質の向上を図り、所得の確保と水田フル活用を行いましょう。

2 「里のほほえみ」の品種特性について（「タチナガハ」と比較して）

- ①青立ちにくい →刈取適期に収穫作業できる
- ②裂莢にくい（はぜにくい） →脱粒による減収が少ない
- ③蛋白質含有量が高い →豆腐など加工に適している

里のほほえみとタチナガハの外見上の違い

	里のほほえみ	タチナガハ
葉の形	丸葉	長葉
花色	白色	紫色
胚軸	無色（緑色）	紫色
種皮色	黄白	黄

上記の外の品種特性（「タチナガハ」と比較して）

- ・開花期、成熟期ともに2日程度遅い。
- ・主茎長はやや長く、主茎節数および分枝数は同等である。
- ・耐倒伏性は「強」である。
- ・莢数は同等～やや少ない。
- ・大粒であり、百粒重は2～3g程度重い。
- ・最下着莢節位高が高いので、機械収穫適応性が高い。
- ・紫斑病抵抗性「強」、ダイズシストセンチュウ抵抗性は「弱」である。

ねぎ黒腐菌核病対策について

大里地域のねぎ栽培では、ねぎ黒腐菌核病の発生時期が広がるとともに大幅な減収になるほ場も散見されています。耕種的対策と土壌消毒、生育期の薬剤処理を組み合わせた発生軽減対策を行い、黒腐菌核病を減らしましょう。

「記載農薬は平成28年2月3日現在の登録状況に基づいています」

◎耕種的対策

①輪作の実施

- ・発病軽減のため、ほ場を休耕するより、夏から秋に緑肥作物（からしな、ソルゴーなど）や輪作作物（カリフラワー、とうもろこしなど）を栽培する。

②発生ほ場の作型変更

- ・発病が多い時期を避け、作型を年内どりの秋冬ねぎに変更する。
- ・定植は5月以降にする。

③土壌条件の改善・深耕の実施

- ・排水路の設置や耕盤の破碎などの排水対策を行う。
- ・極端な酸性土壌にならないように、pH調整を行う。
- ・地表近くの菌核が発病するので、菌核を土中深く埋没させるため30cm以上の深耕をする。

◎土壌消毒

- ・病原菌の密度低下のため、薬剤（ディートラックス油剤、ガスタート微粒剤など）による土壌消毒を行う。
- ・消毒後、必ずビニル被覆を約1か月行い、太陽熱消毒の効果もねらう事で防除効果を高める。

◎生育期の薬剤処理

秋冬ねぎの場合、

- ①9月下旬から10月上旬に1回、
- ②10月末から11月初旬に1回、薬剤防除（アフェットフロアブル、モンガリット粒剤）をする。

花きの省エネルギー対策について

施設花き栽培において、経費削減のため燃油使用量削減などの省エネルギー対策が重要です。そのため、①施設の保温性の向上、②省エネ暖房技術、③省エネ温度管理技術に取り組みましょう。

1 施設の保温性の向上

施設の被覆資材の多重や多層化、施設北面の断熱資材（発泡資材など）の固定張りなどにより、施設内の保温性を向上させます。また、カーテンや妻面の隙間を塞ぐなどして、保温性を確保します。

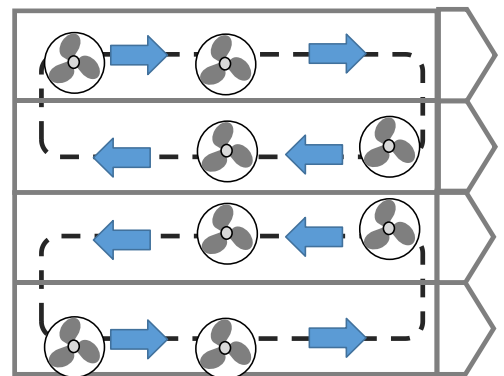
2 省エネ暖房技術

暖房機の運転前に、農林水産省のホームページに掲載されている「施設園芸省エネルギー生産管理チェックシート（改訂版）」を活用して保守点検を行います。

また、導入コストはかかりますが、ヒートポンプと燃油暖房機を併用するハイブリッド運転も運転コストの低減に有効です。この場合、温度センサーは同一のものを用い、燃油暖房機の設定温度をヒートポンプの設定温度から2～3℃下げるようにします。センサーが別々になる場合は、同じ場所に設置し、同じ温度を示すことを確認してください。

3 省エネ温度管理技術

施設内の温度ムラを改善して均一化を図るため循環扇を活用します。循環扇は、温度ムラの改善のほか、病害の発生抑制や光合成促進効果も期待できます。設置の際は、間隔と位置を適切にし、空気の流れの渦が形成されるようにします（右図参照）。循環扇の機能や効果を把握し、適切に設置、制御を行い、省エネルギーにつなげていきましょう。



4連棟ハウスの循環扇の設置例

飼料イネの新品種「たちすずか」について

1 管内における飼料イネの生産利用

管内では約30年間前から飼料イネの生産利用が行われ、平成27年の生産面積は約75ha、品種は本県育成の「はまさり」が主力品種となっています。この中で、昨年より新品種「たちすずか」の生産が始まり、飼料イネを利用する畜産農家の関心が高まっています。

2 「たちすずか」とは？

この品種は2010年に（独）近畿中国四国農業研究センターで育成された飼料イネ専用品種で、①極長稈にもかかわらず穂長は極短であるため、重心が低く倒れにくい、②糖分含量が高く、サイレージの発酵品質および嗜好性が良い、③消化されやすい茎葉の割合が高く、消化されにくい籾の割合が低い、等の特徴があります。

3 栽培のポイント（表参照）

- (1) 施肥量は通常のWCS用稲の栽培（窒素成分7～10kg/10a）に準じますが、基肥が多いと草丈が高く、収穫作業に支障がでるため、極端な多肥栽培は控えるようにします。
- (2) この品種は、縞葉枯病抵抗性がないので、ヒメトビウンカによる感染を防ぐため、育苗箱施薬を必ず実施してください。
- (3) 移植時期が早いと、籾が少なく茎葉の多い「茎葉型」に、移植時期が遅いと、籾が多く茎葉の少ない「穂重型」の草姿になります。出穂時期は移植時期にかかわらず9月中旬頃です。
- (4) 収穫適期は出穂後約1か月ですが、出穂後の期間が長くなるほど糖分含量が高まります。

表 収量調査結果（平成27年 熊谷市）

基肥 (kg/10a)	N-P-K 各7kg
田植日	6月28日
出穂日	9月20日
収穫日	10月19日
草丈 (cm)	154.1
現物収量 (kg/10a)	4,860
乾物収量 (kg/10a)	1,896

農業法人紹介（株）ウエテック

1 法人の概要（熊谷市下川上）

平成24年4月23日設立（構成員2人）。
代表 上原 正（うへはらまさし）氏。
経営規模は、水稲23ha（うち飼料用米12ha）、
小麦2.5haである。



ライスセンター兼事務所

2 設立後の経営変化

脱サラ就農2年目に将来的な経営継承を考え、
法人を設立した。設立後、丸3年が経過した。
主な法人化のメリットを挙げると次のとおりである。

- 信用力が高まり、販路の多様化、資金調達、
規模拡大等、経営力の強化につながった。
特に経営規模は、就農時の約14倍に増えた。
- 農産物検査機関の登録を取得した。
これにより品質管理の意識が強化された。
- 家計と農業経営の分離が明確になった。

3 法人の特色

主食用米は8品種を栽培し、収穫作業の分散化と
多様な販売（業者との契約販売が中心）を
実践している。

また、土木施工関係の資格を活かし、
畦畔除去や整地などの簡易な土地改良に自ら取り組み、
農作業効率の向上、生産コストの削減を図っている。

4 今後の抱負

更なる農地の集積を図り、年間雇用ができる
規模の農業経営を確立する。地域との関わりを
深める観点から地元の定年退職者を雇用したい。

販売面では、実需者との直接取引を拡大して
いくとともに、米の商標登録を取得して販売の
信用力を高めていく。

農地を提供してくれる地権者、販売先の実需
者等の方々に「生かされている」という信条を基に、
法人経営を展開していきたい。

青年農業者研究大会を開催

1 大里地区青年農業者研究大会

平成28年1月22日に「熊谷文化創造館さくら
めいと」で、大里地区青年農業者研究大会をKFC
（大里地区4Hクラブ連絡協議会）との共催で開催
しました。

プロジェクト発表の部では、熊谷4Hクラブ協
議会（発表者：鈴木裕作氏）の「長ねぎ1反1,000
ケース」が最優秀賞、ふかや4Hクラブ（発表者：
山口泰司氏）の「経営改善～オラオラ農業からの
脱却を目指して～」が優秀賞となりました。

意見発表の部では、シュレスタ勝氏（寄居町）の
「直接販売の農家を目指して」が最優秀賞、中野紘於氏
（深谷市）の「農家で再出発」、清水昭裕氏（熊谷市）
の「農家の可能性～新しい事への挑戦～」が優秀賞と
なりました。

また、あわせて、岸本ひさえ氏（熊谷市）、吉橋
直道氏（深谷市）、中野紘於氏（深谷市）による海外
派遣研修報告と、熊谷地方気象台 調査官 山口広氏を
講師とした農業に役立つ気象情報についての研修会も
行いました。

2 埼玉県青年農業者研究大会

平成28年2月9日に、「さいたま市民会館おお
みや」で、埼玉県青年農業者研究大会が開催され
ました。大里地区の代表として、プロジェクト発
表の部では鈴木裕作氏（熊谷4Hクラブ協議会）
が、意見発表の部ではシュレスタ勝氏（寄居町）
が発表を行いました。

鈴木氏は敢闘賞（埼玉県農業研究団体連合会
会長賞）、シュレスタ氏は最優秀賞（知事賞）を
受賞しました。最優秀賞のシュレスタ氏は7月に
長野県で開催される関東ブロックの大会で埼玉県
代表として発表を行います。



県大会で意見発表を行うシュレスタ氏

多面的機能支払交付金の概要について

農業・農村には洪水の防止、自然環境の保全、美しい風景の形成等、様々な働き「多面的機能」があります。多面的機能支払交付金は、こうした多面的機能の維持・発揮のための地域活動を支援する制度です。活動内容は、農地保全のための水路の草刈り・泥上げ・農道の路面維持等を行う「農地維持支払交付金」と、施設の軽微な補修・保全活動・植栽活動・施設の長寿命化のための活動等を行う「資源向上支払交付金」の2つから構成されています。

平成27年度にこの交付金を受けている活動組織は、熊谷市・39組織、深谷市・25組織、寄居町・5組織であり大里農林振興センター管内では活動組織が69組織となっています。

地域資源の保管理と農地を守るため、活動組織の人たちが地域ぐるみで様々な活動を展開しています。



水路の除草活動の様子



コスモスによる景観形成

平成27年度 農業農村整備事業の実施状況について

当センター農村整備部（深谷庁舎）では、用排水施設や農地の整備、農地の防災保全、農道の整備等の農業農村整備事業を実施しています。

＜県営事業＞

NO	事業名	地区名	市・町
①	かんがい排水事業	男沼排水機場 地区	熊谷市、深谷市
②	かんがい排水事業	生野 地区	本庄市(旧児玉)
③	かんがい排水事業	荒川中部右幹線 地区	深谷市、大里郡寄居町
④	かんがい排水事業	荒川中部左幹線 地区	深谷市、本庄市、大里郡寄居町
⑤	かんがい排水事業	大里 地区	深谷市
⑥	かんがい排水事業	備前用水Ⅲ期 地区	本庄市
⑦	かんがい排水事業	奈良川・さすなべ 地区	熊谷市、行田市
⑧	かんがい排水事業	豊里東部 地区	深谷市
⑨	ほ場整備事業	熊谷中央 地区	熊谷市
⑩	ほ場整備事業	明戸北部 地区	深谷市
⑪	農地防災事業	秦 地区	熊谷市
⑫	農地防災事業	篠の池 地区	本庄市
⑬	農地防災事業	桐ヶ谷池 地区	美里町
⑭	農道整備事業	大里比企北部 地区	熊谷市
⑮	川のまるごと 再生事業	江袋溜井 地区	熊谷市

＜団体営事業＞

NO	事業名	地区名	市・町
⑯	彩の国ゆたかなむらづくり整備事業	下郷	深谷市
⑰	ため池調査事業	三階沼	熊谷市

＜県費単独事業＞

NO	地区名	工種	市・町
⑱	原島	用水路	熊谷市
⑲	桜沢	山間地域農地保全	大里郡寄居町
⑳	針ヶ谷	用排水路	深谷市
㉑	富田	農道	大里郡寄居町
㉒	津田新田	用水路	熊谷市



No.① 男沼排水機場地区
ポンプのオーバーホール



No.⑭ 大里比企北部地区
橋脚の補強